

氏名	寺 田 欣 矢
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3819号
学位授与の日付	平成15年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Prognostic value of loss of heterozygosity around three candidate tumor suppressor genes on chromosome 10q in astrocytomas (第10染色体長腕に存在する腫瘍抑制遺伝子のヘテロ接合性喪失解析による星状神経膠腫の予後評価)
論文審査委員	教授 許 南浩 教授 黒田 重利 教授 筒井 公子

学位論文内容の要旨

第10染色体には多くの腫瘍抑制遺伝子が存在し、発癌性や悪性度と関連していると言われている。我々は、第10染色体長腕(10q23.3~10q26.1)上の、3つの腫瘍抑制遺伝子(PTEN、NEURL、DMBT1)のヘテロ接合性喪失(LOH)を解析することにより、どの遺伝子が星状神経膠腫の予後に関わっているか、予後の予測因子となり得るかを検討した。手術摘出した40例の星状神経膠腫よりDNAを抽出し、銀染色の手法を用いてLOHを分析した。3つの遺伝子のうち、PTENのLOHは生存期間の短縮と関連しており、LOHを認める症例の平均生存期間は7.2カ月であったのに対し、LOHを認めないものは21.4カ月であった。組織学的悪性度、Ki-67染色陽性率などの予後因子の他に、PTEN領域のLOHを併せ検討することは、星状神経膠腫の治療を進める上で有用であると思われた。

論文審査結果の要旨

第10染色体には多くの腫瘍抑制遺伝子が存在し、発がん性や悪性度と関連していると言われている。本研究は40例の星状神経膠腫について、第10染色体長腕(10q23.3~10q26.1)上の3つの腫瘍抑制遺伝子(PTEN、NEURL、DMBT1)のヘテロ接合体喪失(LOH)を解析し、予後予測因子となり得るかどうかを検討したものである。その結果、PTENのLOHを認める症例の平均生存期間が7.2ヶ月であったのに対し、認めないものは21.4ヶ月と、PTENのLOHと予後に有意な関連性が見出された。その他に、組織学的悪性度、Ki-67染色陽性率をも検討し、PTENのLOHとこれらを併せて検討することが星状神経膠腫の治療を進める上で有用であると結論している。予備審査委員会は、本研究が星状神経膠腫の治療方針を決定する上で一定の意義を有すると判断した。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。